

先進繡像玉石雜誌

高

三篇二

海外書冊

和書門			
一六〇	二〇	二九	二四
冊	架	函	號

庫文閣内			
五八	六〇	二〇	二四
冊	架	函	號

内閣文庫			
番號	和	16024	
冊數	20 (2)		
函號	158	211	



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

先進備像玉系雜誌卷之二目錄

萬里小路中納言藤房卿真像并傳

延文弟三年遁倫隱士秋 嘉元二年十歳の時乃詩 夕郎貫首

小田氏畧系 關東八將 不二房四跡 雁巢公乃菴室

妙心寺二世授翁宗嗣 侃公子 屢乃鏡子と云名番

下野長光寺古鏡古錢

吉田内大臣定房公真影并傳

吉部秘訓抄 吉續死 後嵯峨院乃後皇統兩流不列事

持明院教 大覺寺教 後醍醐天皇乃皇太子乃御事

長講堂領 吉田亭行幸乃圖 節公乃御方違

定房公子息并姫表

淺草文庫



菊池次郎武時入道寂阿真像并傳

御封戸 領家 下司磯 少貳氏 大友氏

鎮西探題 榊田宮乃麟 母衣

大坪左京亮有成入道道禪真容并贊及傳

雙合文 鑄錢坊并鑄錢次八道禪坊及道禪次と云て

鞍鐙規矩相承乃々々 大坪式部大輔慶秀

大坪亥三郎吉利 道禪乃鞍

頓阿法師壽像并傳

梶井乃芝 執當職 小野宮大納云能實卿

梶井別當忠頼 大納云為世卿高野山花折院

住みひくこと 同卿薨御乃と 愚問賢注

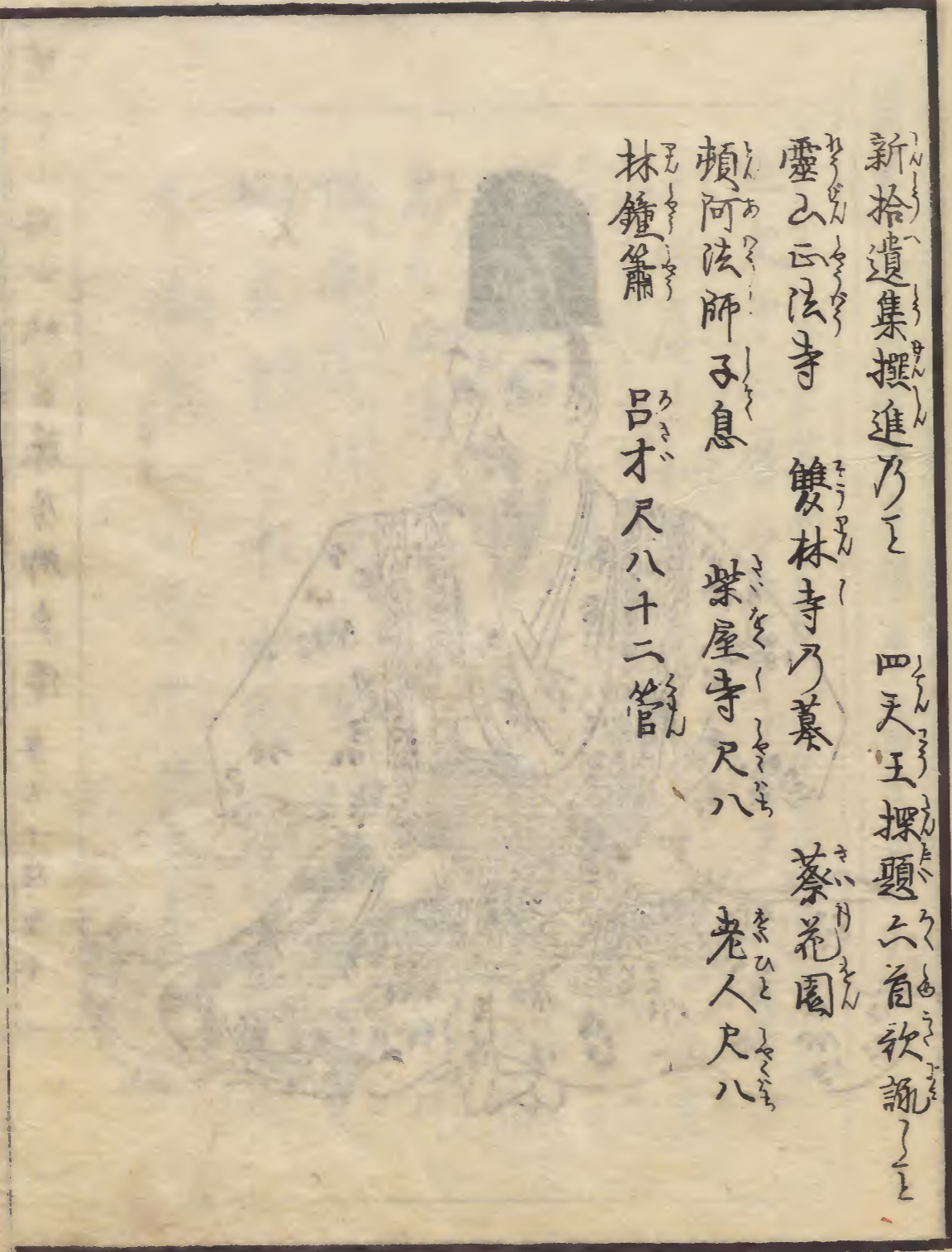
二ノ目錄

新拾遺集撰進乃と 四天王探題三首歌詠とと

靈山正法寺 雙林寺乃墓 蔡花園

頓阿法師子息 紫屋寺尺八 老人尺八

林鐘簫 呂才尺八十二管



萬里小路中納言藤房卿真像 集古十種原本



萬里小路藤房卿真蹟 太平記圖會所載

延文才三層 乃多下旬天凶常
 送風塵未和軍 率之 皇 務治深
 望 蛇牛之 角 約 命 蛇 蛇 之
 一夕 一 習 志 之 悲 徵 仙 教 之 滅 期
 根 東 嶺 拜 神 而 樂 利 物 弟 弟 之
 擊 系 宮 之 中 决 然 之 餘 述 二 角 之
 甲 懷 表 一 心 之 中 勝 而 已

道倫隱士

雪にうらぶらぶおきてと
 とりいす海をみれば乃海
 歸ふへたあはれ乃を雪海
 都ふとれけはるる

延文二年の藤房卿六十之歳花園ちかに在りて閑山くわんざん惠玄ゑいげん不隨ふじふ
 此文意を考ふこのぶんいふかんふい寺門ちかに衰微のせいひと云西隣さいりん跡あと舊きう
 云くふ門か之の井い東嶺とうりやう拜神らいじん之をくふ井寺い新羅しんらと云ふ必是かならず之井い
 寺衆じしゆ徒乃たの隱倫いんりんかふへり藤房卿ふさふ北朝きたう乃延文のんぶん乃辨のん
 と用もちひ終入しゆうに入いるる正平せいへい十三年じゅうさんねんと有あへるとり

萬里ばんり小陸せうりく中ちゆう行かう云藤房卿ふさふ吉田きちだ大貳だいじ資經すけのり卿きやうの孫そん陸大射りくたいしや
 云宣房卿のんぶんきやうの二男になん永仁えいにん十二年じふにねん丙申ひのえのとし歳とし誕生たうじんありと云ふ惟房ただふさ
 赤元あかぎ二年ふたひ十歳じゅうさいふく春はる本もと品物ひんぶつ都みやこ春容はるよう本もと母はは花はな開ひらく香かぐ正濃せいりゆう
 今日けふ太平たいへい三朝さんちゆう思家しけ醉まよ賞うら更さら飛鐘ひでかねと云詩うたを賦ふ後のち二条ふたじょう
 院いんふ奉ほうら持もちけりる子こ獻けん感かん淺せんうらいは推おし者ものと云ふ學まな問と
 を勤とめしむをと父ちち卿きやうの作しやくへ宣旨せんしありしは螢雪せうせつの
 勉つとめ著あを困まあらは博覽はくらんの同どう善倫ぜんりんと秀ひいで給たまひしふら文保二
 年二月にねん廿九日にじゅうくにち年ねん女によ之のふく先せん坊ぼう大進だいしん資すけ乃の替か子こ五位ごい
 義人ぎじん子こ補おぎなせらし也なり職原しやくげん劍けん了りやう五位ごい藏人ざうじん之の人ひと名な家け譜ふ代だい珠たま撰せん
 云ふその年ねん衣い少せう辨べん了りやう任にん一いつををうら衣い大だい緝しやく子こ轉てん一いつ才さい名なありし
 孝かう徳とく撰せん了りやう依よくく中ちゆう宮みや亮りやうを兼かね元亨二年げんかうにねん正月しげつ廿八日にじゅうはちにち歳としふく

けは付教房卿中常陸國より上洛ありて又月十七日
乃如く正二位中納言よりかきき給ひ推中納言源通久卿
の左衛門督使檢非違使別當たりしと推中納言經顯卿の右
衛門督たりしを止めらむとてけ卿を右衛門督使別當ふ
補きらむしを笠置供奉乃志を賞せらむしをふへし
くく建武元年宸軍勲功の賞給ひ給ひけりけりし
方番文之番安午戌日畿内山陰山陽西逸の別當ありて
沙汰を致さむんとすれハ女調内奏りさむとけり
中興乃帝業茲猶乃利とす所を傷み内々
風諫をならむと云と良薬たり苦く忠云許年逆
い志の月十一日石徳水山幸乃ありけるよしおれ

三十三

最後の供奉と云とれし時乃大埋ふく花やうよ
装束しつ供供きらむ還幸の後十四日了致仕乃後花顔
了辺のきまふしと部けりけりけりけりけりけり
に系門一十月未雨了退出し北岩倉と云とて不二
房と云僧を戒師しつ多年拜趨の儒冠を解く十戒持
律乃法體了成むひけりけりけりけりけり
まを捨ふふをうき世乃人しけりけりけりけり
棄思入を為去安報恩者 白頭望以万重心 曠劫思
波盡底乾 不是胸中花五逆 出家端的報親難
と破すつ少障子のより書給しつ誅王修乃乃たふし
足ふすつ勢く出まひけり

公卿補任太平記南朝和傳建武
記等ふしつ太平記金腰院年ふ



越前國
 鷹巣
 藤房卿
 隠遁の
 巻室



あつちの世乃人の問くれハ空の皇子宿求を
と書付玉へ款奉乃花を少持の能く承りし
少くを尋せ玉ひけむた更らるる玉を孫の最本
かくてと字ひ一人の夢もあなれとて皆涙を流し
てたり 太平記南朝紀傳等 依りて義助興國
を經く前野中裏へ義助興國根尾城を落し伊勢
城の居て尾張守高経と戦ひしハ興國元年の事と
此の居の僧房郷からん
又同一頃大納言實世郷乃所降へ重の弟又とて其
少款を尋せ玉ひけむた更らるる玉を孫の最本

表のすむ宿乃のりるをきてこれの昔よりぬら
遊年もさかゝ昔よりぬらぬを衣と誓うを孫の
遊年もさかゝ昔よりぬらぬを衣と誓うを孫の

使乃童を女よりとて同と接へ由ハ今期西形分
て系を別とてふら瘦衰たふ修の者乃以文任け
作のいしと云ふ多き皇居へ系り玉く大和紀伊
門関了詔し修の者を止りて後と云ふれと云ふ
あつちの世乃人の問くれハ空の皇子宿求を
相國乃長子南朝小因侯一左大臣不任給ハ延文
年八月十九日薨せり由ハ系圖了足控也ハ後房
六十二歳の
妙心寺六祖傳云天授授翁宗弼禪師嗣關山姓藤氏
修寺大臣家花族也云云康暦二年三月十八日遷化世
壽八十五閻維以設利建塔於正法山西頭名曰天授院
康暦二年ハ南朝天授六年不て後房郷八十歳あり
天授院と云ハ南朝の年号也是は後房郷の發房郷たる

一書小迫江國綿向神社大官司出雲氏ハ南朝方あり
身を本心の良隅に瘞之塔を建之微矣庵と名付と
云國山國師以狀入藏延文八年十二月十二日か
宗綱六十八歳より二十一年の際住持せり
乃頭子至り松樹に依り出世乃始末を立決り早て泊
然として化去侃公子遠子一死了告く文室了昇入全
了より海に花園乃國山國師の系孫せり連り
日國師装束一笠を戴き侃公子を呼お携り風水泉
乃頭子至り松樹に依り出世乃始末を立決り早て泊
然として化去侃公子遠子一死了告く文室了昇入全
身を本心の良隅に瘞之塔を建之微矣庵と名付と
云國山國師以狀入藏延文八年十二月十二日か
宗綱六十八歳より二十一年の際住持せり
乃頭子至り松樹に依り出世乃始末を立決り早て泊
然として化去侃公子遠子一死了告く文室了昇入全

かは善里小跡後房郷道世乃後志りけ家り任終ひ
けるり法王修了り出立り人々々慶の境さりと云番子
余所よりも夕々々風よき月影りり縁の谷川
と云初を縁り出立り氏了終り並れたりと云
又江列妙感寺乃傳説子ハ康暦二年に月廿八日夜房
郷莞以年八十八國山國師法嗣授翁宗綱妙心弟二世
とあり

又明和元年正月廿八日下野國都賀郡西義濃村長光
寺境内乃古塚を獲きたり鋼塔一基と古鏡及ハ
古鏡を以りり鏡乃録了整衣冠整瞻視と云六字を
識り表りハ當塗王經一字之禮一品一錢千部寶祚興

久并藤三位資通卿公冥福藤後一位宣房卿公福壽不
 二行者授翁敬白興國四年壬午正月吉日とあり興國
 八地朝の康永元年の宣房卿建武二年七十九歳不
 生家ありの是は比歳恩赦からけ八十八歳不
 へい古銭冬皇宋元寶二皇宋通寶二錢十宋元通寶錢一開
 元通寶錢四咸平通寶錢五太平通寶錢二淳化通寶錢一至道元
 室錢景德通寶錢九太中通寶錢二天禧通寶錢十天聖元
 室錢廿八明道元室錢二至和元室錢五嘉祐通寶錢一嘉祐元室
 五錢治平通寶錢二治平元室錢十五熙寧元室四元豐通寶
 百十元祐通寶錢八十紹聖元室錢十六元符通寶錢十六政和
 九錢通寶十五宣和通寶錢二至元通寶錢三廢減錢五百十九百
 七十六錢ありしなり

吉田内大臣定房公真影清閑寺家祖



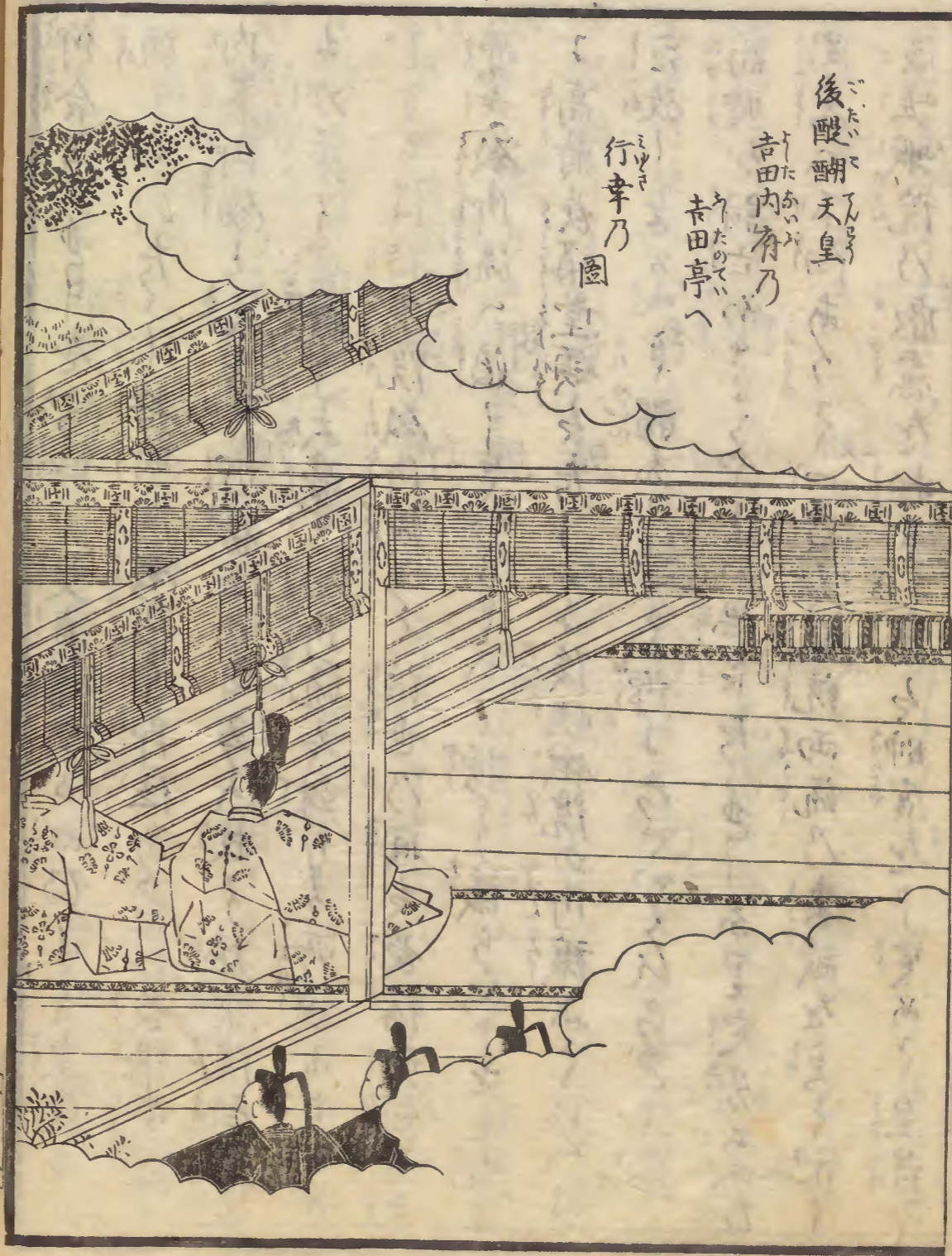
信光縮旨

吉田内大臣定房を推大納言云経房卿又代孫推大納言
経長卿乃長男なり 推大納言経房卿乃記を吉記と云二卷あり又吉部秘訓抄三卷あり
長卿の記を吉續記と云廿三卷有職乃同高し世
あり定房卿乃纂らむ所と云 有職乃同高し世
子萬里小路宣房卿北畠親房卿と吉田定房云を二房と
称せしとけり其乃家吉田了あ又けせば吉田内府と称
せしふふ屋し 経房卿乃遷り別業を造営ありしより代々
せらむ 抄承久三年鎌倉の義時り計らひしと後鳥羽
たり 大御門順徳乃之上皇を隠岐院阿波院依渡院順徳の
國へ遷し奉りしハ闘諍乃餘勢ありと東夷悍暴乃致と
處と云ひ愈しそれさへ末代乃不思儀と承久三年四月廿日
のち 後嵯峨院入王八十七代中諱邦仁と云は是より國人を

順徳院御位を懐成親王に譲ら勢ちしと云は是より
義時を廢し奉り皇を九條廢帝と云は是より高倉院第二宮
行助法親王乃立俗の時乃序子茂仁王と云は是より
後堀河院と稱し其御子四條院仁治二年崩御の後野子
む皇統を継ぐと云は是より後嵯峨院の御子中御位乃
邦仁親王を御位に即する 後嵯峨院を王
後立坊立后云と云は皆東あく議らひしと云は是より成
ぬふ也冠履を其を易しと云は是より多しと云は是より時乃暫止
おとゆさかそ憂悒さ加之後嵯峨院乃后腹乃一宮久仁
親王 後深草院二宮恒仁親王 龜山 とくおと海と云は二宮乃
御流り皇統相續せし勢終るを慮を相摸守時頼
内御位 後深草院 正嘉二年二宮御歳十あり東宮子
を終る 後深草院 后 後深草院を 是より
御位 即 是より 龜山院 なり 是より 文永四年 後宇

多院誕生すしけはは鎌倉時宗父時頼の志を成して
東宮了と云ふは後深草院の二宮無仁親王乃四歳あり
を刺宮了と云ふは後深草院恨みおのりて流し傳へて
同九年後嵯峨院崩御乃時了御位を永く龜山乃御流
相續あり勢ら取角を中を大宮院後嵯峨院中宮御孫
御母了遺依りりかとよ代く乃御守了置せら連大
田村麻呂の太刀を大宮院了り龜山院了傳えたりし
後深草院ふり恨みせ勢入りてありけるもや同十
一年龜山院御讓位ありて後深草院即位ありけるも後
深草院了り時宗へ仰りりて旨ありりしハ無仁親王を東
宮了と云ふは後嵯峨院崩御ありりて後深草院父帝の
遺依りを引たりて我御子を東宮と云ふ

弘安十年後深草院御讓位ありて無仁親王御流了りて
給入伏見院ありりて一宮胤仁親王伏見院を東宮
と云ふは後深草院と云ふは相傳ありりてありりて後
深草院了りて定房公を御使ありりて關東乃貞時
後嵯峨院乃貞時可祖父時頼へ憑仰りりて遺詔をば早
も忘却せりりかと恨み仰りりてありりて貞時了議ひり
東宮親王を御流了りて即ち後伏見院ありりて後深草院
皇子那治親王を東宮と云ふは後深草院御流を御明
正賣此新町の西安采小聚と云ふは持明院仁洞の四女
ありりて後堀河院乃御母ありりて基家卿の家ありり
の後ハ御母の所御と云ふは白河院と云ふは後堀河院
の仙洞了りりて乃御流と云ふは龜山院後嵯峨院の御孫
ありりて乃御流と云ふは龜山院後嵯峨院の御孫ありり



後醍醐天皇
吉田内府乃
吉田亭へ
行幸乃
園

一流小歸一一度は長構堂領乃奪ふ處よりさ致を知と
い處とも知さふものべくし高時をたのらむしそ
心をゆと傾けし人にも有とさけりさ致とも後宇多
法皇より無雙迎習志す元應三年正月一日三春なり
去時節分乃所方遠とく大覺寺より吉田亭へあき勢
ひととかや御幸部類抄了尼也後醍醐天皇を帥宮と
きし時より親しくおりめられも即位乃後元亨二
年十二月節分御方違了吉田亭へ行幸あり此御補任この
勸賞了定房云從一位了叙一長男宗房近衛少将了捕さ
らむと正慶元年後醍醐天皇隱岐國へ遷幸あり後ハ
都子止めらむと光嚴院了仕むしと後醍醐天皇還

幸乃後建武元年九月九日内大臣了任せらむ十二月十七
日民部卿を兼むしけふり同二年二月十六日内大臣を正
表ありつととも民部卿ハ元の如しとそ延元元年正月後
醍醐天皇山門へ行幸ありけふ所後へ系内一明星日札
二間乃所和等を左收めく山門へ登山ありけふは
公乃力ありとゆき後芳野へ臨幸ありしは定房云
心まき芳野へ系候きりて同三年正月廿三日吉野ハ
みく薨きりて春秋六十と云天保壬寅より長男ハ
大納言宗房卿新葉集乃他志あり次々從一位大納言守
房女子を龜山院乃堀川と云後了ハ大炊御門内大臣冬
信云乃室家みく氏信の母と系圖了尼也

應永寫本洛外圖所載吉田定房公亭地圖



菊池次郎武時入道寂阿真像



菊池次郎武時入道寂阿ハ肥後國菊池郡乃地頭ふちのくにのきくちのこほりなり其
先祖を尋ぬる中關白道隆ちゅうかんぱくみちたか云乃之男太宰権帥敦原隆
家乃子と對馬守政則と云寛仁三年四月異賊いさく叢來乃時
博多松原を警固一異賊と合戦一大将乃首を獲たり一
より勲功以賞とく九列兵士乃頭くわにれつへいしのかぶたる多倫たごりんを
賜たり其子太宰少監則隆延久二年小菊池郡を賜たり
て屋敷所とせしは菊池とは名乗一なり則隆十二代
の孫を菊池三郎隆盛と云よ武時乃父を武時一
人乃嫡あり無雙の義人なり一は二条關白道平ふたにのせき子
めさむと姪一人を倣くは振衣ハ後醍醐天皇乃安福
教女御榮子とせし一云
肥後國菊池郡乃地頭あり師忠云乃道平云

の祖父ふちのこほり乃地頭封とは菊池郡乃民戸二戸あり
人而戸より民乃租と四丁中男乃調庸を合さ
て賜人あり是は租庸二条教乃納め地と民とい
菊池氏の有あり依く二条家の領家と稱し菊池ハ地頭
領乃下司職とせし一武時乃名く藤原と寂阿と
称と男おとこ子十六人あり長男肥後ひご武重次男掃部助武敏
二男肥後三郎頼隆三男對馬守武茂四男八郎經重六男
阿日房隆舜七男七郎武吉八男豊田十郎武光九男彦次
郎武義十男武尚十一男豊田武豊十二男肥後次郎武士
十三男肥前守武隆十四男肥後守武澄十五男武方と云
元弘三年後醍醐天皇隱岐國より伯耆國船上山より臨幸
あり一とき寂阿入道しやくあにだう子息を使とく論旨を請せし
よと上殿感ありと錦乃御旗と論旨を請せしと下と被る

寂阿大夫喜く少貳貞經筑前國入牧母ハ武藏氏七代の孫
子孫代々少貳を任し大友貞宗大宰少貳たりしより
が宰府に任じしなり鎮西探題北条英時を討亡り
然し後船工を馳走んとせしむ鎮西探題北条英時を討亡り
鎮西探題ハ弘安六年北条遠江守為時北条義時の子
の長を鎮西奉じし下さしを始と以て為時九列男相摸守動時
下向一筑前困姪濱十二年居任し永仁元年鎌倉へ
るに後へ越後守兼時時頼の五男修理大夫宗頼の長子兵彦
以時家各越左近將監を探題し下されたり其後元亨
元年北条英時を探題とせしむ及一人よりかき取り
以時を博多津の城を築く任じしと鎮西要略の事

いふに、かゝる機たるを、探題英時を以て、菊池を
く、菊池に、はせしむるや、は事、終、終、と、おひ、か、い、少貳、大
友、行、子、使、言、を、ま、き、急、き、博、多、へ、推、考、ま、し、と、牒、し、金、を
ける、よ、大、友、ハ、定、り、お、か、返、事、し、し、小、貳、を、忽、ち、召、り、し、し、
菊池、の、使、者、を、斬、り、英、時、と、一、身、を、成、ぬ、寂、阿、大、子、等、が、家
子、郎、等、百、五、十、餘、人、を、博、多、を、所、へ、お、き、け、か、時、拵、四
宮、乃、前、を、馬、り、て、打、け、か、り、織、り、馬、と、ん、と、動、り、以、寂、阿
上、等、乃、痛、夫、を、斬、り、打、番、ハ、い、か、不、辨、し、お、お、し、備、を、一
天、系、衆、の、衆、乃、論、る、不、信、し、朝、敵、退、治、り、兵、向、入、寂、阿、の、衆
打、替、め、移、入、へ、し、謂、ふ、し、と、て、初、乃、扉、を、射、り、し、し、馬、ハ、走
り、か、し、以、進、め、け、り、後、子、見、ゆ、色、ハ、大、か、か、鱗、矢、ハ、あ、り、し、



菊池寂阿
 御田宮へ箭を
 放りし
 武士乃や大ゆゑ乃
 一筋助におもひ切と
 非
 ちすや

信北圖

此紐一尺八寸五分

此紐一尺八寸

菊池寂阿入道之母衣十云傳

南無勝軍地藏大菩薩 總長五尺五寸 恰好五幅

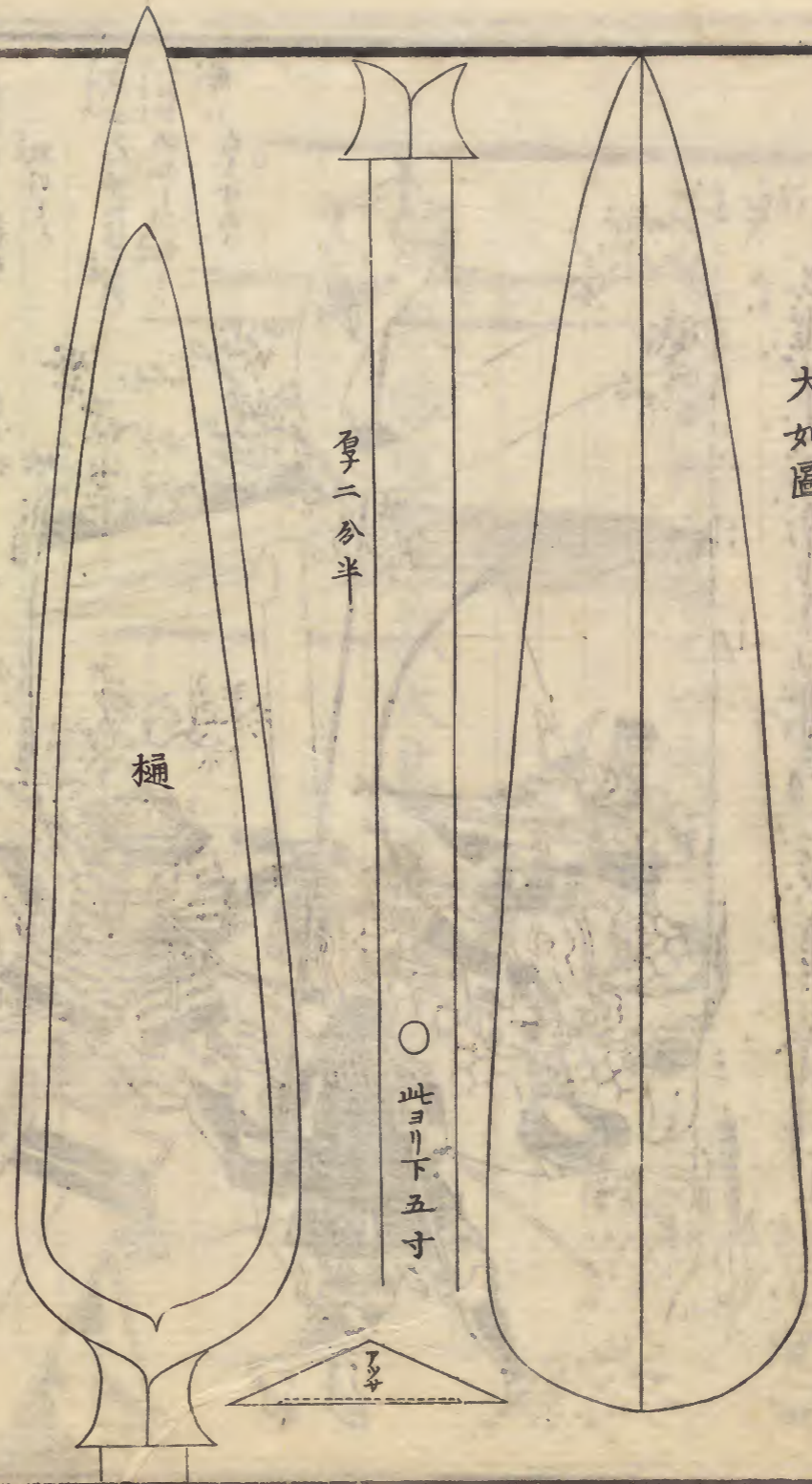
下紐 長三尺 廣八分

鎗

菊池寂阿所贈於楠正成卿云

間宮氏藏

大如圖



死々々り擲田神乃軍の凶を示されたり云人小有る
 寂阿を討死と思ひ定めくけは故郷へ形見を贈るとて
 故郷より今宵たり乃命とも知くや人乃それを待らん
 楚乃咽の日博多へおしを息をせ継ぎん責たりいはは
 英時今を是すくと脱了自害きんとせし如く少真大友
 軍兵數子騎みく英時よ力を合以寂阿あをを見く嫡子
 武重り又十餘騎を討分く菊池へ敵しあき軍を起し
 朝敵を亡り父の仇を報きよと事りん汝乃事全す
 細くと教訓し元弘三年四月廿八日筑前國博多津あ
 行年十二歳討死し名を九原乃若乃とす残し墓を乃
 代乃後の世り傳えけり 天保壬寅ま
 又百十年

信光嘗く九列地圖を見しふ那後國菊池郡と筑前國
 博多津と其相距と凡之十里了及屋一河内國石川郡
 乃六波羅を隔と相比と致了頗遠く英時と仲時時益
 の勢と相較ふ致了英時ハ又劣弱あり正成郷ハ其疆
 域了割據し々始終乃勝を全く寂阿入道其郷里
 奮發し々一旦乃銳氣を振人事就ふ至らけし身
 殞と致し痛惜了堪以然王とハ命とハ死了臨了長子
 了後事を託と致し正成郷と全く同了子孫累世官軍
 乃魁首と了々正統天子を匡翼と了とハ了々甚お他
 たり寂阿傳贊了志操凜然と了々崑山乃玉乃如了秋
 乃霜了似了りと至云盡了りと云へ了了了

大坪左京亮有成入道道禪真像 伊勢氏藏



大塚比五

此令侍按能乾

以規矩裁古方持山

を返用柱自由未士

魚島神託驅弛如神列臻人編

清水不現見化白言誌良紛替

往來曲直本縁鞅不聯之

唯云控狩牧地致像

是後子輩必壽

茶也祿門

道禪入道の贊像

の上入あり乾山士論

和尚ハ乾峯士曼乃

法弟ハ贊の書法を

雙合文と萬宝金書

小尺也讀法兩邊より

念進と云これあり

大塚九京亮有成入道道禪ハ桓武天皇九代野與六郎基

永五世淡河九左郎有家乃男あり武藏國秩父郡黒谷村

了住と野黒谷村了鑄錢坊鑄涉次おと云ありと武藏

鎌倉將軍家不仕く弓馬好實教中乃礼儀了精一り

去り月元弘三年鎌倉乃滅一後是利教の所内をりけり

伊勢伊勢守貞進入道照禪より我家了徳一入く鶴子系

馬鞍燈教中故實を尋問たりしふり道禪入道也云云乃

深切なりと云云ハ辰戌拂く相傳と鞅燈規矩相承記伊勢

傳考へ伊勢照禪の長子伊勢守貞信の長男貞沙ハ

秘中禮儀を奉り次野貞信ハ鞅燈規矩を相承し其

世子孫代々相傳たりと云云道禪入道乃鞅燈を傳る規矩也

魚島大内神子新日く自得と云云應安年中より在

系（た）大樹（た）義満（た）了（た）師範（た）一應（た）永十二年十二月鞍（た）鑑（た）制（た）他
 乃規（た）矩（た）を伊勢（た）七郎（た）勘（た）解（た）由（た）左衛門（た）尉（た）貞（た）長（た）了（た）相（た）傳（た）一（た）同（た）十
 四年十月十七日卒

一書（た）小（た）道（た）禪（た）入（た）道（た）と大坪（た）武部（た）大輔（た）慶（た）秀（た）及（た）小（た）大坪（た）亮（た）之
 帝（た）吉利（た）入（た）道（た）直（た）弟（た）之（た）人（た）を混（た）雜（た）一（た）人（た）と（た）以（た）る（た）を（た）以（た）り
 今（た）案（た）下（た）武部（た）大輔（た）慶（た）秀（た）ハ（た）應（た）元（た）年（た）六月（た）十日（た）八（た）十四
 歳（た）少（た）く卒（た）と（た）あり（た）然（た）る（た）應（た）永（た）十六（た）年（た）己（た）丑（た）歲（た）小（た）生（た）一（た）人（た）
 あり道（た）禪（た）入（た）道（た）後（た）弟（た）之（た）年（た）小（た）南（た）より大坪（た）亮（た）之（た）帝（た）吉利（た）
 入（た）道（た）直（た）弟（た）ハ（た）永（た）享（た）九（た）年（た）小（た）愛（た）想（た）之（た）卷（た）成（た）書（た）た（た）是（た）は（た）道（た）禪（た）の
 没（た）後（た）三（た）十（た）一（た）年（た）小（た）南（た）より（た）等（た）を（た）以（た）り（た）一（た）人（た）あり（た）所（た）か（た）と（た）を
 知（た）へ（た）一（た）於（た）詳（た）小（た）鞍（た）鑑（た）新（た）書（た）小（た）録（た）出（た）と（た）

大坪入道道禪真作鞍 伊勢因幡貞常所傳

前輪馬夾一尺九分 爪長六寸六分

中墨より八寸三分半

山高三寸二分 鏝口二寸六分

手形一寸五分

後輪馬夾一尺二寸四分

爪長八寸五分

中墨より一尺二分

山高三寸七分

折目五寸六分

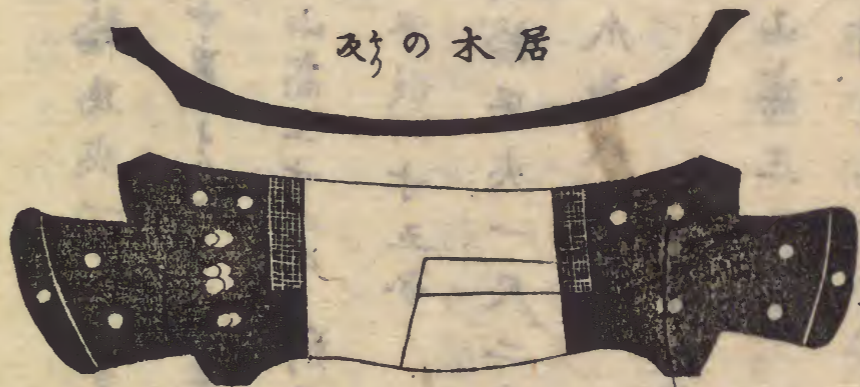
總高一尺九分



頼阿法師壽像

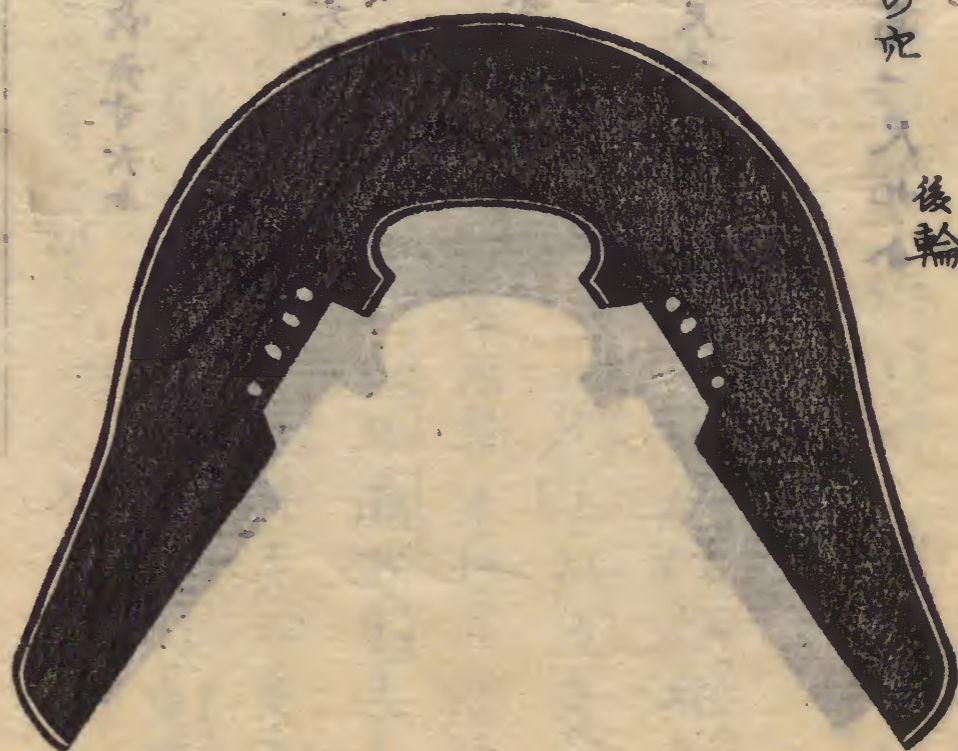


居木の形



居木

取付の緒付の形



後輪

頓阿法師父を良阿と云楳井執當法印源全 楳井乃芝と云あり御代宮門跡より攝家將軍家御一代小
とあり同書之綱堂衆公人下僧妻帯衆禁四足二足不禁魚と
と云二綱ハ輪番了執當職了任さるし執當ハ乃二男お上源全
山門ノ諸堂ノ司ヲ知ナリとあふみ思登一
を京極攝政師實云 御堂親白道長の四男小野宮大納言
能實卿乃子楳井別當忠頼五代乃孫なり 忠頼長承元年
ハ歳率と云は楳井仁豪 忠頼乃子全春乃青蓮院乃御留
僧正住持の源了あたる 守職みく中納言上座と云全春の子を楳井執當法印仁
全と云 仁全ふ二人乃子あり兄を執當法眼承辨と云即
源全乃父なり弟を執當法眼仁尋と云 和歌秘傳抄了頓阿
仁尋ハ仁尋乃子仁全暫く頓阿初名乃泰尋山門了住と
和歌秘傳乃系圖了あふみ思登一 頓阿初名乃泰尋山門了住と
後了高野山ふ登里大納言為世郷乃住と終入小田原谷

乃花折院了入々薪水了終仕一名を感空と改む 為世郷
和歌の師あり云頓補任不嘉曆四年八月廿五日為世郷咳病不愈
て出家八十歳時了前權大納言云二任不嘉曆四年八月廿五日為世郷咳病不愈
隠不傳入る知ハ赤曆四年登山と云 為世郷薨後ハよは世り
頓阿四十一歳の時了あふみ思登一 為世郷薨後ハよは世り
知人か一々々々和歌乃道おひ絶かんとと歎き一とや
為世郷薨年系固了あふみ思登一不嘉曆四年九月廿六日
推中納言為世郷叙任二任同日辭と又云元徳二年正月
十三日還任とあり嘉曆五年五月不殿入あまそは後高野
かからと為世郷の表了依く辭さけあまそは後高野
ふをゆく系不歸里仁和寺の邊了住けけり猶世を厭
ふふふり々々時了あふみ思登一に糸道場全蓮寺入々頓阿
と改め意を風月了遊り免思を泉石了楽一々々々
元弘建武乃表亂を安らうり過さ色けり了等持院將軍
家尊氏 宝篋院將軍家 義隆 之か和歌乃道を慕も色て常

又靈山（たみ山）へ還るるをうしつゆ子（ひたつた）大納言（たか）云（い）于時（このとき）花（はな）ちりり
後尋（のち）かりり

たつひそして妻（あま）をなほもはたはと結（むす）し宿（やど）の橋（はし）を

返（かへ）し

花（はな）さうりとはぬけりりそそ忘（わす）ぬる雪（ゆき）あまの雪（ゆき）今（いま）日は結（むす）

（たみ山）世（よ）郷（ごう）の中（なか）將（しょう）ありし時（とき）頼（たの）阿（あ）と申（まを）すははい

時（とき）ハ大（おほ）日本（にっぽん）史（し）より後（のち）豊（ゆたか）山（やま）了（しる）す

又（また）所（ところ）子（こ）入（い）入（い）大（おほ）納（のう）言（ごん）云（い）かきと給（たま）ひし後（のち）去（さ）乃（すなは）送（はな）るもの

侍（さむらい）くさし（さむらい）並（なら）侍（さむらい）了（しる）す内（うち）裏（うら）了（しる）すきさしめされ

年（とし）薨（こう）逝（し）と云（い）ハ後（のち）醍（たい）醐（ご）南（なん）時（とき）乃（すなは）明（あ）通（と）なり道（みち）を執（と）事（じ）張（ちやう）る

へり守（まも）教（しやう）訓（くん）し作（しや）り所（ところ）を（を）圓（えん）白（はく）教（しやう）于（この）時（とき）承（じやう）りを

給（たま）く侍（さむらい）と登（のぼ）仰（おほ）下（くだ）り侍（さむらい）し

勅（しやく）ふ也（なり）はおのひかきて其（その）後（のち）島（しま）乃（すなは）送（はな）る頼（たの）みんありとも

侍（さむらい）り登（のぼ）り

雲（くも）井（い）と開（ひら）きけふるを和（わ）秋（あき）乃（すなは）浦（うら）乃（すなは）芳（よし）間（ま）の橋（はし）乃（すなは）音（ね）山（やま）も立（た）

ぬを時（とき）了（しる）大（おほ）和（わ）秋（あき）乃（すなは）醍（たい）醐（ご）南（なん）時（とき）乃（すなは）明（あ）通（と）なり道（みち）を執（と）事（じ）張（ちやう）る

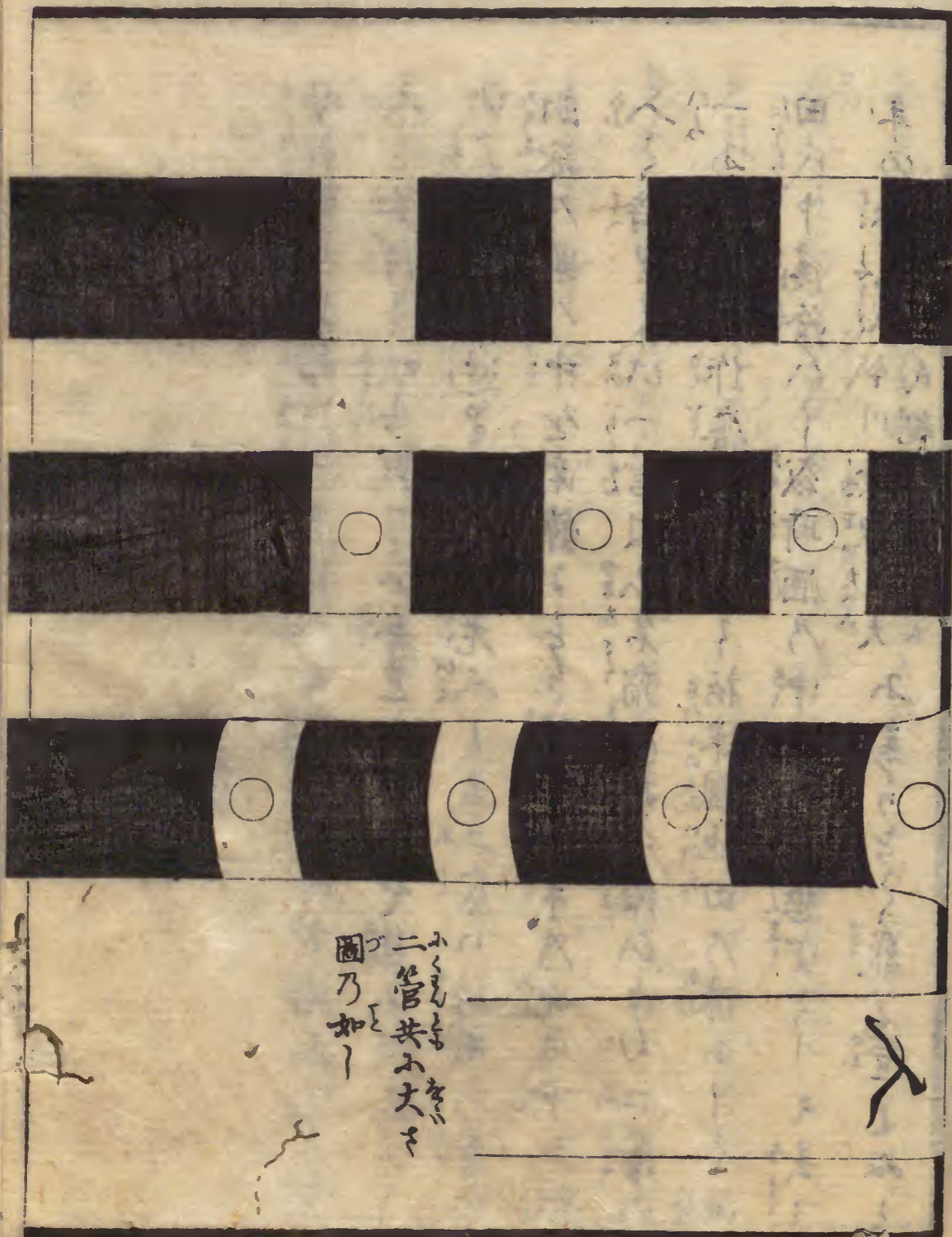
頼（たの）阿（あ）乃（すなは）子（こ）を經（きやう）賢（けん）と云（い）推（おし）井（い）乃（すなは）執（と）當（たう）法（ぽう）印（いん）を相（さう）續（じやく）と經（きやう）賢（けん）の

子（こ）を竟（きやう）尋（じん）と云（い）おあきく執（と）當（たう）法（ぽう）印（いん）たり竟（きやう）尋（じん）の子（こ）を竟（きやう）孝（こう）

と云（い）和（わ）秋（あき）乃（すなは）開（ひら）きけふるを推（おし）大（おほ）僧（そう）都（と）法（ぽう）印（いん）子（こ）任（にん）じ詠（えい）秋（あき）の

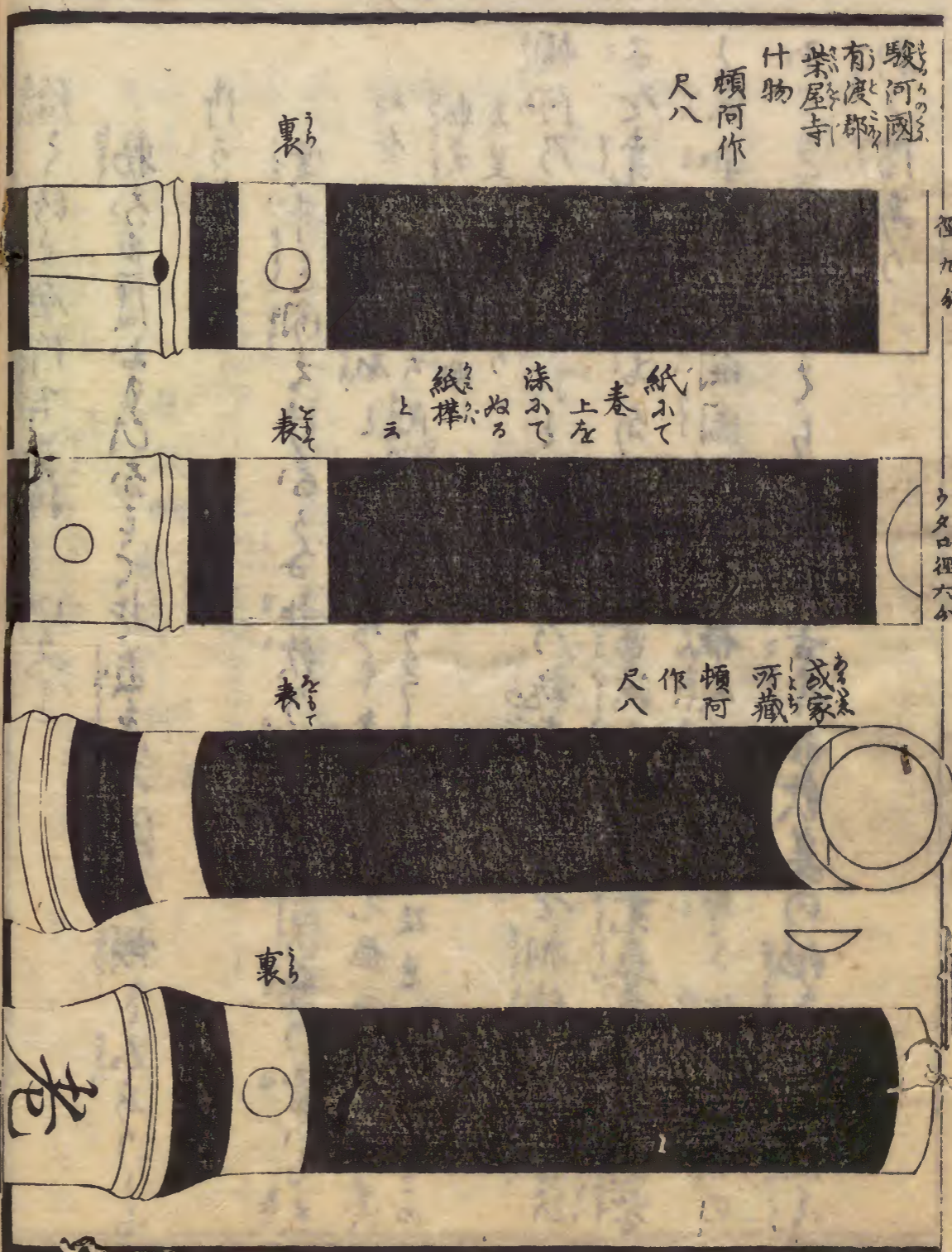
不（ふ）まも曾（そう）祖（そ）了（しる）すところし新（しん）後（ご）古（こ）今（いま）和（わ）秋（あき）集（しゆ）の他（ほか）志（し）たり後（のち）に

別（わか）子（こ）侍（さむらい）あり



二管共小大
圖乃如

大



駿河國
有波郡
柴屋寺
什物
頼阿作
尺八

徑九分

裏

紙紙巻上左
沫ぬみぬ
紙紙棒上
表

夕夕口徑六分

成家
所藏
頼阿作
尺八

表

裏

卷

紫屋軒什物頼阿作乃尺八々宗長法師宇津山記亦老
 人と名付く吹出教この無色ともうせ縫みは志う
 の八硯乃邊里を避を老人と云二字ハ約成乃季の
 朗詠乃題乃中を南録よと寫一押手乃虎の下小殿
 入く侍里一は一管は山名霜臺携へ給ひ々々二帯の
 一みく頼阿作應仁乃亂了橋津國池田乃陣ふく池
 田氏中徳給ひ一或時酒乃中の戯る懇望を去
 年の春匠作今川修理大夫親朝長を云不氣りきく罷り登りぬと

ある物か教屋一山名霜臺とは彈正大弼持豊入道宗
 令乃てあり宗全を頼阿没後二十三年不生色一人か
 也は頼阿作と云傳也正しく受る知ありかか屋一
 老人と銘あるつは宗長より今川氏親朝長へ系りて
 と云管か屋一氏親朝長ハ上総介義忠朝長の長子或家
 あり傳ふる説を頼阿作一は是利民部少輔所持の
 處應仁乃亂了故ありく宗長乃て入く由あり是利
 民部少輔と云人考人處か一山名氏清より民部
 少輔と稱をくは氏清頼阿より相傳きく氏清
 亡ひく後宗全入道乃て入く一に山あか屋きく
 屋一押尺八々唐ふく林鍾蕭と云る管をりきく是は筒

